TLVx886 マルチプレクサ対応入力付き、ゼロドリフト、ローパワー、低ノイズ、オペアンプ

1 特長

- 高い DC 精度:
  - ゼロドリフト:0.01μV/°C
  - 低いオフセット電圧:3μV
  - 高 PSRR:150dB
  - 高 CMRR:150dB
- 優れた AC 性能:
  - ゲイン帯域幅:5.4MHz
  - スルーレート:13V/μs
  - 低ノイズ:9.5nV/√Hz
- 負レールへの入力、レール ツー レール出力
- 低い静止電流:570μA
- 電源電圧範囲:4.5V ～ 36V
- 温度:-40℃ ～ +125℃
- 保護機能:
  - サーマル シャットダウン
  - 位相反転の防止
  - ラッチアップ保護

2 アプリケーション

- PC 電源およびゲーム機
- 商用 DC/DC
- 流量トランスミッタ
- 圧力トランスミッタ
- 商用バッテリ チャージャ
- 電気メータ

3 説明

TLV886、TLV2886、TLV4886 (TLVx886) は、低ノイズ、広帯域幅、ゼロドリフトのオペアンプのファミリです。これらのオペアンプのオフセット電圧は、わずか 15μV (最大値) であり、温度範囲全体でのオフセット電圧ドリフトは、わずか 0.05μV/°C (最大値) です。

TLVx886 は、幅広い汎用アプリケーションに対応する、広帯域幅と低消費電力を特長としています。このデバイス ファミリは、独自のマルチプレクサ対応入力アーキテクチャの採用により、マルチチャネルの多重化アプリケーションにおける性能を向上させます。

TLVx886 は DC および AC 性能が優れているため、アナログ入力モジュール、バッテリ テスト、高精度計測機器など、高精度と低ノイズが必要なアプリケーションに最適です。

TLVx886 は、業界標準のパッケージと超小型のパッケージで利用可能、スペースの制約が厳しいアプリケーションに適しています。これらのデバイスの動作範囲は、–40°C ～ +125°C に指定されています。

パッケージ情報

部品番号 (1)	チャネル数	パッケージ (2)	パッケージ サイズ(3)
TLV886	シングル	D (SOIC、8)	4.90mm × 6.00mm
		DBV (SOT-23、5)	2.90mm × 2.80mm
		DRL (SOT、5)	1.60mm × 1.60mm
TLV2886	デュアル	D (SOIC、8)	4.90mm × 6.00mm
		DGK (VSSOP-8)	3.00mm × 4.90mm
		DSG (WSON-8)	2.00mm × 2.00mm
TLV4886	クワッド	D (SOIC、14)	8.65mm × 6.00mm
		PW (TSSOP-14)	5.00mm × 6.40mm

(1) 開発中製品の情報 (量産データではありません)。
(2) 詳細については、セクション 10 を参照してください。
(3) パッケージ サイズ (長さ × 幅) は公称値であり、該当する場合はピンも含まれます。

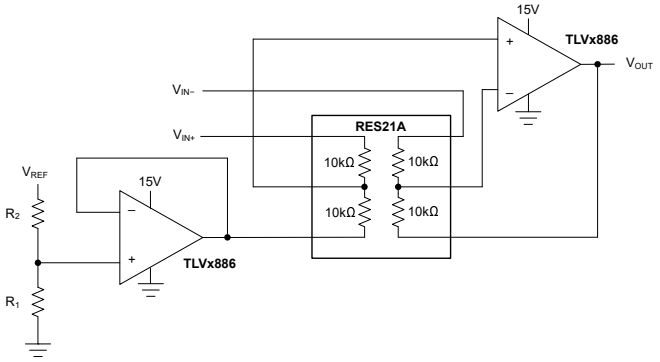
ADVANCE INFORMATION

このリソースの元の言語は英語です。翻訳は概要を便宜的に提供するもので、自動化ツール (機械翻訳) を使用していることがあり、TI では翻訳の正確性および妥当性につきましては一切保証いたしません。実際の設計などの前には、ti.com で必ず最新の英語版をご参照くださいますようお願いいたします。

ADVANCE INFORMATION

関連製品

部品番号	オフセットドリフト	ゲイン帯域幅	ノイズ	電源電流
TLVx888	50nV/°C	14MHz	7.5nV/√Hz	1.5mA



差動アンプ

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

目次

1 特長.....1
2 アプリケーション.....1
3 説明.....1
4 ピン構成および機能.....4
5 仕様.....6
5.1 絶対最大定格.....6
5.2 ESD 定格.....6
5.3 推奨動作条件.....6
5.4 熱に関する情報：TLV886.....7
5.5 熱に関する情報：TLV2886.....7
5.6 熱に関する情報：TLV4886.....7
5.7 電気的特性.....8
6 詳細説明.....10
6.1 概要.....10
6.2 機能ブロック図.....10
6.3 機能説明.....10
6.4 デバイスの機能モード.....13
7 アプリケーションと実装.....14
7.1 使用上の注意.....14
7.2 代表的なアプリケーション.....17
7.3 電源に関する推奨事項.....20
7.4 レイアウト.....21
8 デバイスおよびドキュメントのサポート.....23
8.1 デバイス サポート.....23
8.2 ドキュメントのサポート.....23
8.3 ドキュメントの更新通知を受け取る方法.....24
8.4 サポート・リソース.....24
8.5 商標.....24
8.6 静電気放電に関する注意事項.....24
8.7 用語集.....24
9 改訂履歴.....24
10 メカニカル、パッケージ、および注文情報.....24

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

4 ピン構成および機能

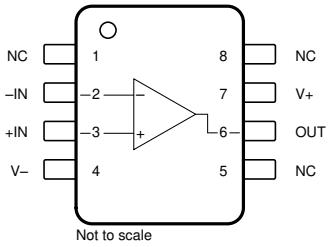


図 4-1. TLV886：D パッケージ、8 ピン SOIC (上面図)

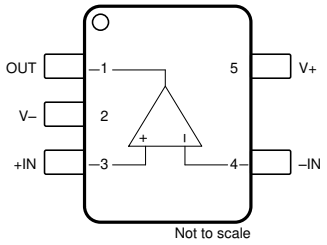


図 4-2. TLV886：DBV パッケージ、5 ピン SOT-23 (上面図)

表 4-1. ピンの機能：TLV886

ピン			タイプ	説明
名称	番号			
	D	DBV		
–IN	2	4	入力	反転入力
+IN	3	3	入力	非反転入力
NC	1、8、5	–	_	接続なし (フローティングのままでも可)
OUT	6	1	出力	出力
V-	4	2	電源	負 (最低) 電源
V+	7	5	電源	正 (最高) 電源

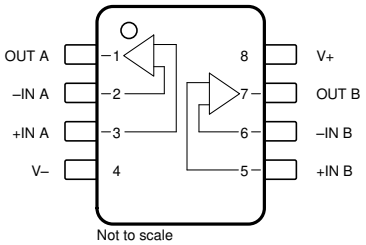


図 4-3. TLV2886：D パッケージ、8 ピン SOIC および DGK パッケージ、8 ピン VSSOP (上面図)

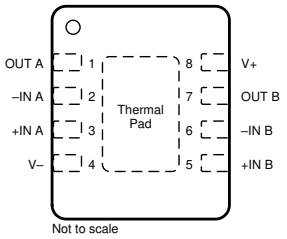


図 4-4. DSG パッケージ、8 ピン WSON (露出サーマル パッド付き) (上面図)

表 4-2. ピンの機能：TLV2886

ピン		タイプ	説明
名称	番号		
-IN A	2	入力	反転入力、チャネル A
-IN B	6	入力	反転入力、チャネル B
+IN A	3	入力	非反転入力、チャネル A
+IN B	5	入力	非反転入力、チャネル B
OUT A	1	出力	出力チャネル A
OUT B	7	出力	出力チャネル B
V-	4	電源	負電源
V+	8	電源	正電源
サーマル パッド(1)	-	-	サーマル パッドを負電源 (V-) に接続します。詳細については、*「露出サーマル パッド付きパッケージ」*も参照してください。

(1) DSG パッケージのみ

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

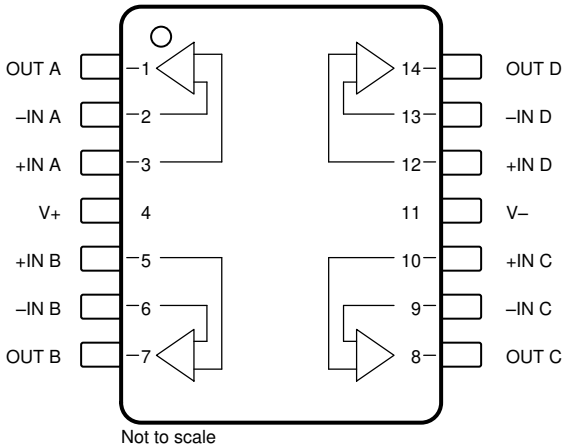


図 4-5. TLV4886：D パッケージ、14 ピン SOIC および PW パッケージ、14 ピン TSSOP (上面図)

表 4-3. ピン機能：TLV4886

ピン		タイプ	説明
名称	番号		
-IN A	2	入力	反転入力、チャネル A
-IN B	6	入力	反転入力、チャネル B
–IN C	9	入力	反転入力、チャネル C
–IN D	13	入力	反転入力、チャネル D
+IN A	3	入力	非反転入力、チャネル A
+IN B	5	入力	非反転入力、チャネル B
+IN C	10	入力	非反転入力、チャネル C
+IN D	12	入力	非反転入力、チャネル D
OUT A	1	出力	出力チャネル A
OUT B	7	出力	出力チャネル B
OUT C	8	出力	出力チャネル C
OUT D	14	出力	出力チャネル D
V-	11	電源	負電源
V+	4	電源	正電源

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

5 仕様

5.1 絶対最大定格

自由空気での動作温度範囲内 (特に記述のない限り) [(1)]

			最小値	最大値	単位
V_S	電源電圧			40	V
	信号入力電圧	同相	(V–) – 0.5	(V+) + 0.5	V
		差動		(V+) – (V–)	
	電流			±10	mA
	出力短絡 [(2)]		連続		
T_A	動作温度		-55	150	°C
T_J	接合部温度			150	°C
T_{stg}	保存温度		-65	150	°C

(1) 「絶対最大定格」外での操作は、デバイスに恒久的な損傷を引き起こす可能性があります。「絶対最大定格」は、これらの条件において、または「推奨動作条件」に示された値を超える他のいかなる条件でも、本製品が正しく動作することを暗に示すものではありません。「絶対最大定格」の範囲内であっても「推奨動作条件」の範囲外で使用すると、デバイスが完全に機能しない可能性があり、デバイスの信頼性、機能、性能に影響を及ぼし、デバイスの寿命を縮める可能性があります。
(2) グランドへの短絡、パッケージあたり 1 台のアンプ。本デバイスは、過剰な出力電流による電気的損傷を抑えるように設計されていますが、特に電源電圧が高い場合に短絡電流が増加すると過熱が発生し、最終的には熱破壊を引き起こす可能性があります。

5.2 ESD 定格

			値	単位
$V_{(ESD)}$	静電放電	人体モデル (HBM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-001 準拠[(1)]	±4000	V
		デバイス帯電モデル (CDM)、ANSI/ESDA/JEDEC JS-002 準拠 [(2)]	±250	

(1) JEDEC のドキュメント JEP155 に、500V HBM では標準の ESD 管理プロセスで安全な製造が可能であると規定されています。
(2) JEDEC のドキュメント JEP157 に、250V CDM では標準の ESD 管理プロセスで安全な製造が可能であると規定されています。

5.3 推奨動作条件

自由気流での動作温度範囲内 (特に記述のない限り)

			最小値	公称値	最大値	単位
V_S	供給電圧、(V+) – (V–)	単一電源	4.5		36	V
		デュアル電源	±2.25		±18	
T_A	動作温度		-40		125	°C

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

5.4 熱に関する情報：TLV886

熱評価基準[1]		TLV886		単位
		D (SOIC)	DBV (SOT-23)	
		8 ピン	5 ピン	
$R_{\theta JA}$	接合部から周囲への熱抵抗	144	197	°C/W
$R_{\theta JC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	82	96	°C/W
$R_{\theta JB}$	接合部から基板への熱抵抗	89	65	°C/W
Ψ_{JT}	接合部から上面への特性パラメータ	26	33	°C/W
Ψ_{JB}	接合部から基板への特性パラメータ	88	65	°C/W
$R_{\theta JC(bot)}$	接合部からケース (底面) への熱抵抗	該当なし	該当なし	°C/W

(1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、『半導体および IC パッケージの熱評価基準』アプリケーション ノートを参照してください。SPRA953

5.5 熱に関する情報：TLV2886

熱評価基準[1]		TLV2886		単位
		D (SOIC)	DGK (VSSOP)	
		8 ピン	8 ピン	
$R_{\theta JA}$	接合部から周囲への熱抵抗	132	159	°C/W
$R_{\theta JC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	72	53	°C/W
$R_{\theta JB}$	接合部から基板への熱抵抗	82	93	°C/W
Ψ_{JT}	接合部から上面への特性パラメータ	20	3	°C/W
Ψ_{JB}	接合部から基板への特性パラメータ	81	92	°C/W
$R_{\theta JC(bot)}$	接合部からケース (底面) への熱抵抗	該当なし	該当なし	°C/W

(1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、*「半導体および IC パッケージの熱評価基準」*アプリケーション ノートを参照してください。

5.6 熱に関する情報：TLV4886

熱評価基準[1]		TLV4888		単位
		D (SOIC)	PW (TSSOP)	
		14 ピン	14 ピン	
$R_{\theta JA}$	接合部から周囲への熱抵抗	95	103	°C/W
$R_{\theta JC(top)}$	接合部からケース (上面) への熱抵抗	56	37	°C/W
$R_{\theta JB}$	接合部から基板への熱抵抗	54	61	°C/W
Ψ_{JT}	接合部から上面への特性パラメータ	18	9	°C/W
Ψ_{JB}	接合部から基板への特性パラメータ	54	60	°C/W
$R_{\theta JC(bot)}$	接合部からケース (底面) への熱抵抗	該当なし	該当なし	°C/W

(1) 従来および最新の熱評価基準の詳細については、『半導体および IC パッケージの熱評価基準』アプリケーション ノートを参照してください。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

5.7 電気的特性

T_A = 25°C、V_S = 4.5V ～ 36V、V_{CM} = V_{OUT} = V_S/2、および R_{LOAD} = 10kΩ を V_S/2 に接続 (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件		最小値	標準値	最大値	単位
オフセット電圧							
V_{OS}	入力オフセット電圧(1)				±3	±15	μV
		T_A = –40°C ～ +125°C				±20	
dV_{OS}/dT	入力オフセット電圧ドリフト(1)	T_A = –40°C ～ +125°C			±0.01	±0.05	μV/°C
PSRR	電源除去比(1)	T_A = –40°C ～ +125°C			±0.03	±0.5	μV/V
入力バイアス電流							
I_B	入力バイアス電流(1)				±50	±350	pA
		T_A = –40°C ～ +125°C				±7	nA
I_{OS}	入力オフセット電流(1)				±100	±600	pA
		T_A = –40°C ～ +125°C				±3	nA
ノイズ							
E_n	入力電圧ノイズ	f = 0.1Hz～10Hz			0.27		$μV_{PP}$
e_n	入力電圧ノイズ密度	f = 10Hz			9.5		nV/√Hz
		f = 100Hz			9.5		
		f = 1kHz			9.5		
i_n	入力電流ノイズ密度	f = 1kHz			200		fA/√Hz
入力電圧							
V_{CM}	同相電圧			(V–) – 0.1		(V+) – 2	V
CMRR	同相除去比	(V–) – 0.1V ≤ V_{CM} ≤ (V+) – 2V	V_S = ±2.25V	118	135		dB
			V_S = ±18V	140	150		
		(V–) – 0.1V ≤ V_{CM} ≤ (V+) – 2V、T_A = –40°C ～ +125°C(1)	V_S = ±2.25V	118	130		
			V_S = ±18V	140	150		
入力インピーダンス							
z_{id}	差動入力インピーダンス				100 || 1.6		MΩ || pF
z_{ic}	同相モード入力インピーダンス				1 || 1.9		TΩ || pF
開ループ ゲイン							
A_{OL}	開ループ電圧ゲイン	V_S = ±15V, (V–) + 0.6V < V_O < (V+) – 0.6V、R_{LOAD} = 10kΩ		130	148		dB
			T_A = –40°C ～ +125°C(1)	130			
		V_S = ±15V, (V–) + 1V < V_O < (V+) – 1V、R_{LOAD} = 2kΩ		130	144		
			T_A = –40°C ～ +125°C(1)	130			

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

5.7 電気的特性 (続き)

T_A = 25°C、V_S = 4.5V ～ 36V、V_{CM} = V_{OUT} = V_S/2、および R_{LOAD} = 10kΩ を V_S/2 に接続 (特に記述のない限り)

パラメータ		テスト条件		最小値	標準値	最大値	単位
周波数応答							
GBW	ゲイン帯域幅積				5.4		MHz
SR	スルーレート	ゲイン = 1、10V ステップ			13		V/μs
THD+N	全高調波歪み + ノイズ	ゲイン = 1、f = 1kHz、V_{OUT} = 4V_{RMS}			0.00012%		
	クロストーク	f = 100kHz			110		dB
t_S	セトリング タイム	ゲイン = 1、10V ステップ	0.1% まで		1.5		μs
			0.01% まで		15		
t_{OR}	過負荷回復時間	V_{IN} × ゲイン = V_S = ±18V			950		ns
出力							
V_O	電圧出力スイング (レールから)	正のレール、V_S = 30V	無負荷(1)		26	40	mV
			R_{LOAD} = 10kΩ		122	150	
			R_{LOAD} = 2kΩ		500	575	
		負のレール、V_S = 30V	無負荷(1)		26	40	
			R_{LOAD} = 10kΩ		112	135	
			R_{LOAD} = 2kΩ		515	575	
		R_{LOAD} = 10kΩ、T_A = –40°C ～ +125°C、両方のレール(1)				250	
I_{SC}	短絡電流				±52		mA
C_{LOAD}	容量性負荷駆動能力				「代表的特性」を参照		pF
Z_O	オープン ループ出力インピーダンス	f = 1MHz			460		Ω
電源							
I_Q	アンプごとの静止電流	V_S = ±2.25V (V_S = 4.5V)、I_O = 0A			570	630	μA
			T_A = –40°C ～ +125°C(1)		570	650	
		V_S = ±18V (V_S = 36V)、I_O = 0A			570	615	
			T_A = –40°C ～ +125°C(1)		570	620	

(1) デバイス母集団のベンチ システム測定から確立された仕様。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

6 詳細説明

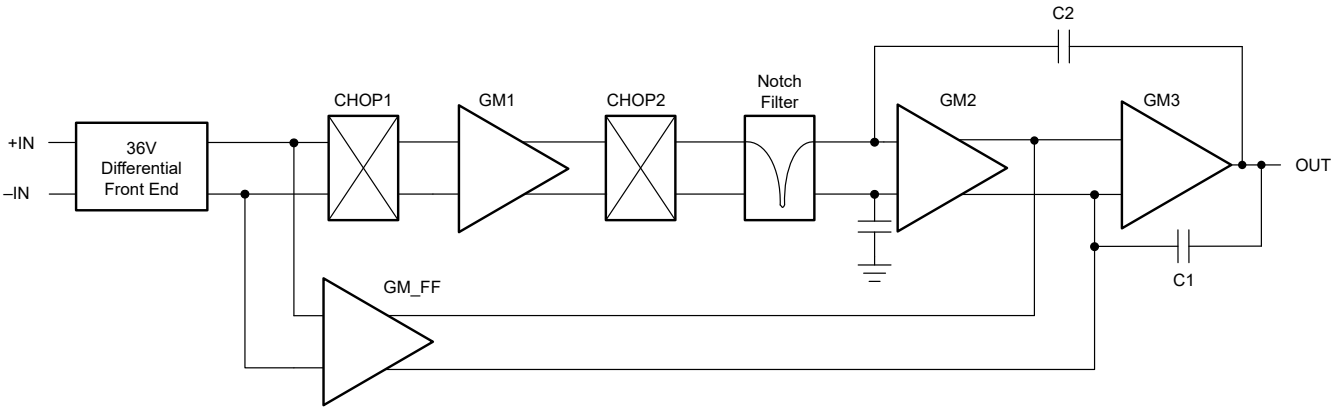
6.1 概要

TLVx886 オペアンプは、高精度のオフセットとドリフト、優れた全体的性能を兼ね備えているため、多くの高精度アプリケーションに最適です。0.01µV/°C という高精度のオフセットのドリフトにより、–40°C ～ +125°C の全動作温度範囲にわたって安定性が提供されます。さらに、このデバイスは CMRR、PSRR、A_{OL} が高く、優れた線形性能を提供します。すべてのアンプと同様に、ノイズの多い、または高インピーダンスの電源を使用するアプリケーションでは、デバイスのピンの近くにデカップリング コンデンサが必要です。通常は、0.1µF のコンデンサが適しています。詳細およびレイアウト例については、「セクション 7.4」を参照してください。

TLVx886 は、ゼロドリフト、マルチプレクサ対応オペアンプ ファミリの製品です。このデバイスは 4.5V ～ 36V で動作し、消費する静止電流は 1mA 未満で、ユニティ ゲインで安定しており、さまざまな汎用かつ高精度のアプリケーション用に設計されています。ゼロドリフト アーキテクチャにより、入力オフセット電圧が非常に低く、さらに、温度変化および時間の経過に伴う入力オフセット電圧ドリフトがほぼゼロになっています。また、このアーキテクチャの選択により、低広帯域ノイズやチョッパ周波数未満で動作する際のフリッカー ノイズがゼロといった、優れた AC 性能が得られます。

次のセクションは、独自の TLVx886 アーキテクチャを示しています。

6.2 機能ブロック図



6.3 機能説明

TLVx886 オペアンプは、独自の定期的な自動キャリブレーション技術を使用して、非常に低い入力オフセット電圧を実現するとともに、時間の経過および温度変化に伴う入力オフセット電圧ドリフトを非常に低く抑えます。このデバイスは、さまざまなアプリケーションにおいて高い精度を維持するために役立つ、いくつかの統合機能を備えています。これには、位相反転の防止、EMI 除去、電気的オーバーストレスの防止、マルチプレクサ対応入力などがあります。

TLVx886 の規定性能を維持するためのいくつかの設計手法および検討事項については、*『チョッパ アンプの精度の最適化』*アプリケーション ノートと*『オペアンプのオフセット電圧とバイアス電流の制限』*アプリケーション ノートに詳しく記載されています。

6.3.1 入力同相範囲

TLVx886 は、4.5V～36V (±2.25V～±18V) で動作することが規定されています。TLVx886 は、負のレールを含む広い入力同相電圧 (V_{CM}) 範囲を提供しているため、単一電源動作に最適です。入力同相電圧の正のレールに対する範囲は (V+) − 2V に制限されます。規定性能を維持するためには、入力同相電圧を (V–) – 0.1V ≤ V_{CM} ≤ (V+) – 2V に制限します。

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

6.3.2 MUX 対応入力

TLVx886 には独自の入力段設計が採用されており、高い入力インピーダンスを維持しながら、入力差動電圧を印加できます。通常、高電圧の CMOS またはバイポーラ接合入力アンプには、半導体プロセスの最大値を超えていてデバイスに永続的な損傷を与える可能性のある、大きなゲート ソース間電圧 (V_{GS}) から入力トランジスタを保護する逆並列ダイオードが搭載されています。大きいステップ入力を印加したとき、またはチャネル間を切り替えたとき、またはアンプをコンパレータとして使う場合、大きい V_{GS} 電圧が発生してしまう可能性があります。

TLVx886 は、大きい差動電圧が印加されたときに大きい入力バイアス電流が発生することを防止するスイッチ入力手法により、これらの問題を解決します。この入力アーキテクチャは、スイッチングまたは多重化アプリケーションで見られる多くの問題に対応します。これらのアプリケーションでは、大きな電位間を高速にスイッチングすることにより、RC フィルタリング ネットワークに大きな乱れが生じます。図 6-1 は、マルチプレクサ対応入力でセトリング タイム性能を向上できる代表的なアプリケーションを示しています。TLVx886 は、これらの設計の革新により、優れたセトリング性能を得るとともに、スルーレートの向上と広い帯域幅を実現しています。TLVx886 は、コンパレータとしても使用できます。差動および同相入力電圧範囲は引き続き適用されます。

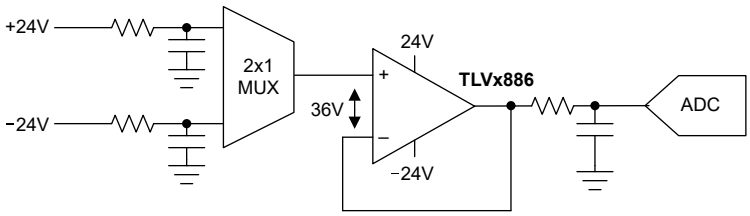


図 6-1. 多重化アプリケーション

6.3.3 位相反転保護

TLVx886 には、位相反転保護が内蔵されています。一部のオペアンプでは、入力がリニア同相範囲を超えて駆動されると、位相反転が発生します。この条件が最も多く発生するのは非反転回路で、規定された同相電圧範囲を超えて入力を駆動すると、出力は逆のレールに反転します。TLVx886 入力は、過剰な同相電圧による位相反転を防止します。代わりに、出力は適切なレールに制限されます。

6.3.4 チョッピングによる過渡現象

TLVx886 などのゼロドリフト アンプは、入力のスイッチング アーキテクチャを使用して、アンプ固有のオフセットとドリフトを補正します。入力の内蔵スイッチからのチャージ インジェクションがあると、アンプの入力バイアス電流に短い過渡現象が発生する可能性があります。パルスの持続時間が非常に短いため、このパルスは増幅されません。ただし、フィードバック回路を経由して、パルスがアンプの出力に結合される可能性があります。アンプ出力における入力過渡現象の影響を最小限に抑えるには、低い値の抵抗を使用します。過渡現象による追加ノイズを最小限に抑えるには、RC ネットワークなどのローパス フィルタを使用します。TLVx886 のチョッピング周波数は通常 200kHz です。

6.3.5 EMI 除去

TLVx886 は、優れた電磁干渉 (EMI) 除去性能を持ち、ワイヤレス通信や、アナログ信号チェーンとデジタル部品を組み合わせた高密度実装のボードなどから発生する EMI 干渉の影響を低減します。EMI 耐性は、回路設計手法により改善可能です。TLVx886 は、このような設計の改善を活用しています。

帯域幅外のスペクトル成分を持つ信号に対しては、それを補正するためのアンプのループ ゲインが不十分なため、いずれかのオペアンプに対して高周波信号が伝導または放射されると、悪影響が発生する可能性があります。入力、電源、または出力で伝導または放射による EMI があると、予期しない DC オフセット、過渡電圧、その他の未知の動作が発生する可能性があります。ノイズの多い無線信号、デジタル クロック、インターフェイスから、敏感なアナログ ノードを適切にシールドし、分離するように注意してください。

ADVANCE INFORMATION

6.3.6 電気的オーバーストレス

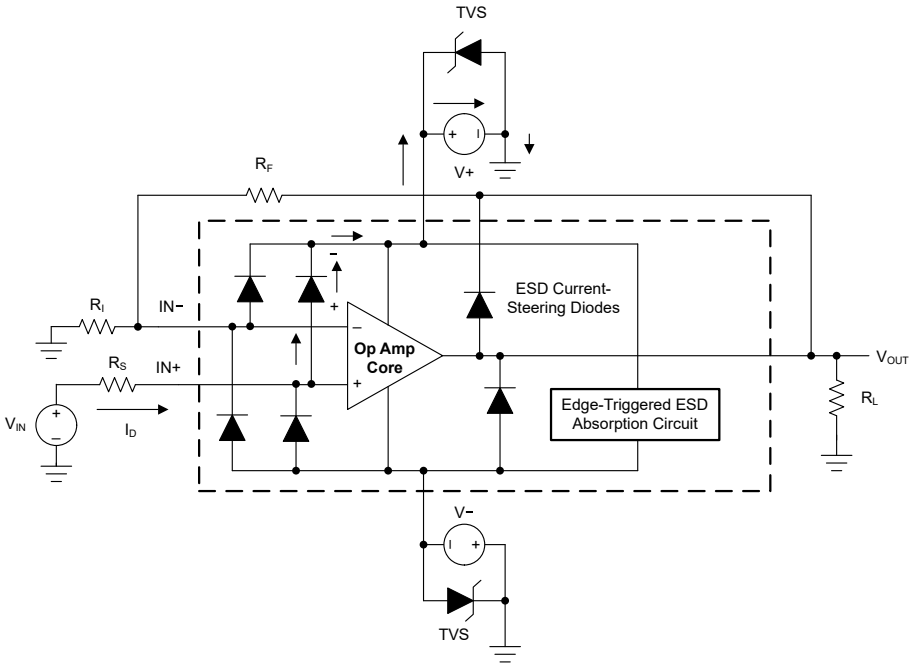
設計者は、オペアンプが電気的オーバーストレスにどの程度耐えられるのかという質問をすることがよくあります。これらの質問は、主にデバイスの入力に関するものですが、電源電圧ピンや、さらに出力ピンにも関係する場合があります。これらの各ピンの機能には、特定の半導体製造プロセスの電圧ブレークダウン特性と、ピンに接続された特定の回路とで決まる電気的ストレスの制限値があります。また、これらの回路には内部に静電気放電 (ESD) 保護機能が組み込まれており、製品の組み立て前にも組み立て中にも、偶発的な ESD イベントから保護します。

この基本的な ESD 回路と、電気的オーバーストレス イベントとの関連性を十分に理解しておくと役に立ちます。TLVx886 に含まれる ESD 回路の図を、図 6-2 に示します (破線で囲まれている部分)。ESD 保護回路には、いくつかの電流ステアリング ダイオードが含まれており、入力ピンや出力ピンから内部の電源ラインへ戻るように配線されています。さらに、これらのダイオードは、オペアンプ内部の吸収デバイスにも接続されます。この保護回路は、回路が通常動作している間は非アクティブになるように設計されています。

ESD イベントがあると、短時間の高電圧パルスが発生し、それが半導体デバイスを通って放電する際に、短時間の大電流パルスに変わります。ESD 保護回路は、オペアンプ コアを迂回する電流経路を提供して、損傷を防止するように設計されています。保護回路によって吸収されたエネルギーは、熱として放散されます。

2 つ以上のアンプ デバイス ピンの間に ESD 電圧が発生すると、電流は 1 つまたは複数のステアリング ダイオードを流れます。電流が流れる経路に応じて、吸収デバイスがアクティブになります。吸収デバイスのトリガまたはスレッショルド電圧は、TLVx886 の通常動作電圧より高く、デバイスのブレークダウン電圧レベルよりも低くなっています。このスレッショルドを超えると、吸収デバイスが迅速にアクティブになり、電源レールの電圧を安全なレベルにクランプします。

図 6-2 は、オペアンプを回路に接続したとき、ESD 保護部品は非アクティブのままであり、アプリケーション回路の動作に関与しないことを示しています。ただし、印加された電圧が特定のピンの動作電圧範囲を超える状況が発生する可能性があります。この状況が発生した場合、一部の内部 ESD 保護回路のバイアスがオンになって電流が流れるリスクがあります。このような電流の流れは、ステアリング ダイオード パスを経由して発生し、吸収デバイスが関係することはほとんどありません。



注：V_{IN} = (V+) + 500mV。
TVS：V+ < $V_{TVSBR\ (min)}$ < 40V。ここで、$V_{TVSBR\ (min)}$ は、TVS のブレークダウン電圧の最小規定値です。
R_S の推奨値は、過電圧状態でのおおよそ 5kΩ です。

図 6-2. 代表的な回路アプリケーションと比較して等価な内部 ESD 回路

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

図 6-2 に、入力電圧 (V_{IN}) が正電源電圧 (V+) を 500mV 以上上回る具体的な例を示します。この回路で発生する現象の多くは、電源の特性によって異なります。V+ が電流をシンクできる場合、上側の入力ステアリング ダイオードの 1 つが導通し、電流を $+V_S$ へ導きます。V_{IN} が高くなると、非常に高いレベルの電流が流れる可能性があります。その結果、データシートの仕様では、アプリケーションが入力電流を 10mA に制限することを推奨しています。

電源が電流をシンクできない場合、V_{IN} はオペアンプへの電流ソースを開始し、その後、正の電源電圧供給を引き継ぐことができます。この場合の危険は、電圧がオペアンプの絶対最大定格を超えるレベルまで上昇する可能性があることです。

よくある質問として、「電源 V+ または V– が 0V のときに入力信号を加えるとどうなるか」というものもあります。ここでも、電源が 0V または入力信号の振幅より低いレベルにあるときの電源特性によって状況が変わります。見かけ上、電源のインピーダンスが高い場合、オペアンプの電源電流は、入力ソースから電流ステアリング ダイオードを経由して供給できます。このような状態はアンプにとって通常のバイアス条件ではなく、特性の劣化や異常な動作につながる可能性があります。電源のインピーダンスが低い場合には、ステアリング ダイオードを流れる電流が非常に大きくなる可能性があります。電流レベルは、入力ソースが電流を供給できる能力と、入力パスに存在する抵抗によって異なります。

この電流を吸収する電源の能力が不確実である場合は、外部過渡電圧サプレッサ (TVS) ダイオードを電源ピンに追加します (図 6-2 も参照)。このブレークダウン電圧は、通常動作中にダイオードがオンにならないように選択する必要があります。ただし、電源ピンが安全な動作電源電圧レベルを超えそうになった場合には TVS ダイオードが導通する程度に、ブレークダウン電圧を低くする必要があります。

6.4 デバイスの機能モード

TLVx886 には単一機能モードがあり、電源電圧が 4.5V (±2.25V) を上回ると動作します。TLVx886 の推奨電源電圧は 36V (±18V) です。

ADVANCE INFORMATION

7 アプリケーションと実装

注

以下のアプリケーションのセクションにある情報は、TI の製品仕様に含まれるものではなく、TI はその正確性も完全性も保証いたしません。個々の目的に対する製品の適合性については、お客様の責任で判断していただくことになります。また、お客様は自身の設計実装を検証しテストすることで、システムの機能を確認する必要があります。

7.1 使用上の注意

TLVx886 オペアンプは、ゲイン帯域幅、ノイズ、消費電流の間で適切なトレードオフを提供します。TLVx886 は、電流検出、ホイートストン ブリッジ、熱電対、測温抵抗体 (RTD)、心電計 (ECG) など非常に低いレベルの信号用のシグナル コンディショニングを必要とするアプリケーションに最適です。低いオフセットと広帯域幅を持つため、非常に大きいゲイン構成が可能であり、低い広帯域ノイズとほぼゼロのフリッカー ノイズによって信号の忠実性が維持されます。

7.1.1 ノイズの基本的な計算

低ノイズ回路設計では、すべてのノイズ源を慎重に分析する必要があります。多くの場合、外部ノイズ源が支配的な要素になることがあるため、ソース抵抗がオペアンプのノイズ性能全体に与える影響を考慮します。回路全体のノイズは、すべてのノイズ要素の二乗和平方根に等しくなります。

ソース インピーダンスの抵抗の部分では、抵抗の平方根に比例する熱ノイズが発生します。ソース インピーダンスは一般に固定されているため、ノイズ全体への寄与を最小限に抑えるオペアンプおよび帰還抵抗を選定します。

図 7-1 は、ゲインが存在する非反転型オペアンプ回路構成を示しています。図 7-2 は、ゲインが存在する反転型オペアンプ回路構成を示しています。ゲインが存在する回路構成では、帰還ネットワーク抵抗もノイズの原因となります。一般に、オペアンプの電流ノイズは帰還抵抗に反応して、追加のノイズを発生させます。ただし、TLVx886 の電流ノイズは低いため、電流ノイズの寄与は無視できます。

一般的には、帰還抵抗の値を選択して、これらのノイズ発生源を無視できる程度まで下げることができます。低インピーダンスの帰還抵抗は、アンプの出力に負荷をかけます。両方の構成について、合計ノイズの計算式を示します。

ノイズ計算に関する追加リソースについては、*TI Precision Labs* を参照してください。

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

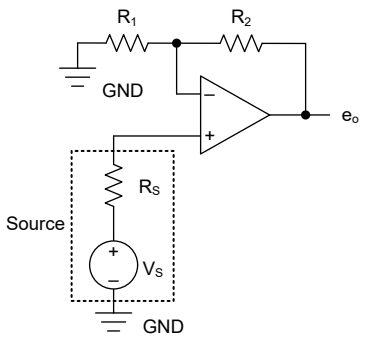


図 7-1. 非反転型ゲイン構成のノイズの計算

$$E_o = e_o\sqrt{BW_N}\ [V_{RMS}] \tag{1}$$

$$e_o = \left(1 + \frac{R_2}{R_1}\right)\sqrt{{e_S}^2 + {e_N}^2 + \left(e_{R_1||R_2}\right)^2 + \left(i_N R_S\right)^2 + \left(i_N \frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2}\right)^2}\left[\frac{V}{\sqrt{Hz}}\right] \tag{2}$$

$$e_S = \sqrt{4k_B T(K) R_S}\left[\frac{V}{\sqrt{Hz}}\right] \tag{3}$$

$$e_{R_1||R_2} = \sqrt{4k_B T(K)\left(\frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2}\right)}\left[\frac{V}{\sqrt{Hz}}\right] \tag{4}$$

$$k_B = 1.38065\ \times 10^{-23}\left[\frac{J}{K}\right] \tag{5}$$

$$T(K) = 2.37.15 + T(°C)\ [K] \tag{6}$$

ここで

- e_N はアンプの電圧ノイズ スペクトル密度。TLVx886 の場合、e_n = 10.5nV/√Hz (1kHz 時)
- i_n はアンプの電流ノイズ スペクトル密度。TLVx886 の場合、i_n = 200fA/√Hz (1kHz 時)
- e_o は合計ノイズ密度
- e_S は、R_S の熱ノイズ
- $e_{R_1 || R_2}$ は、R_1 || R_2 の熱ノイズ
- k_B はボルツマン定数
- T(K) は温度 (ケルビン)

ADVANCE INFORMATION

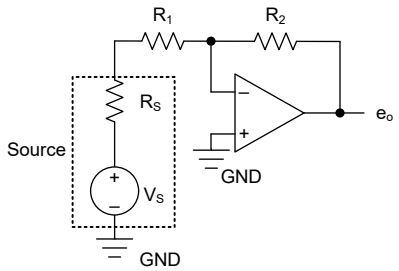


図 7-2. 反転型ゲイン構成のノイズの計算

$$E_o = e_o\sqrt{BW_N}\ [V_{RMS}] \tag{7}$$

$$e_o = \left(1 + \frac{R_2}{R_S + R_1}\right)\sqrt{{e_N}^2 + \left(e_{R_1 + R_S||R_2}\right)^2 + \left(i_N\frac{(R_S + R_1)R_2}{R_S + R_1 + R_2}\right)^2}\left[\frac{V}{\sqrt{Hz}}\right] \tag{8}$$

$$e_{R_1 + R_S||R_2} = \sqrt{4k_BT(K)\left(\frac{(R_S + R_1)R_2}{R_S + R_1 + R_2}\right)}\left[\frac{V}{\sqrt{Hz}}\right] \tag{9}$$

$$k_B = 1.38065\ \times 10^{-23}\left[\frac{J}{K}\right] \tag{10}$$

$$T(K) = 2.37.15 + T(°C)\ [K] \tag{11}$$

ここで

- を参照してください。
- e_N はアンプの電圧ノイズ スペクトル密度。TLVx886 の場合、e_n = 10.5nV/√Hz (1kHz 時)
- i_n はアンプの電流ノイズ スペクトル密度。TLVx886 の場合、i_n = 200fA/√Hz (1kHz 時)
- e_o は合計ノイズ密度
- e_S は、R_S の熱ノイズ
- $e_{(R_1 + R_S) || R_2}$ は $(R_1 + R_S) || R_2$ の熱ノイズ
- k_B はボルツマン定数
- T(K) は温度 (ケルビン)

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

7.2 代表的なアプリケーション

7.2.1 高ゲイン プリアンプ

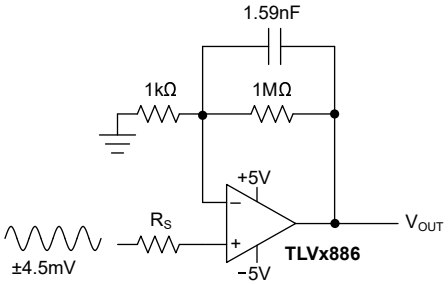


図 7-3. 高ゲイン プリアンプ

7.2.1.1 設計要件

信号増幅は、オペアンプの基本機能の 1 つです。増幅により、電子機器が外部と確実にインターフェイスできます。一部のアナログ信号には専用のアンプが必要です。このようなケースは、ミリボルト レベルやマイクロボルト レベルの信号になり得る、温度、圧力、生体電位を扱う際によく見られます。

A/D コンバータによる正確なデジタル化のために信号を調整するには、非常に高いゲインが必要です。この回路は非常にシンプルですが、適切なアンプを選択することが重要です。このアンプには、非常に低い入力オフセットと入力オフセットドリフト、高い同相信号除去比と電源除去比、超低ノイズが求められます。目的の信号周波数に応じて、必要なゲインで目的の周波数応答を実現するには、広いゲイン帯域幅が必要です。

設計者にとって幸いなことに、前述の特性を持つアンプは、テキサス インスツルメンツからすぐに入手できます。高い DC 精度と低いフリッカー ノイズを備えた TLVx886 は、低いレベルの信号に対して非常に高いゲインを必要とするアプリケーションに理想的です。

この設計例では、以下のパラメータを使用します。

- デュアル電源:±5V
- ゲイン:1001 V/V
- フルスケール入力:±4.5mV

以下の設計の詳細と式は、各種の出力電圧範囲や負荷電流に合わせてこの設計を再構成するために使用できます。

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

7.2.1.2 詳細な設計手順

非常に高いゲイン構成でアンプを設計するには、いくつかの特別な考慮が必要です。具体的には、設計者はアンプに固有の入力換算 DC 誤差やノイズを注意深く考慮する必要があります。回路のゲインは、信号とアンプの誤差の両方を増幅します。低レベル信号を高分解能で高精度に測定するには、アンプに超低ドリフトかつ超低ノイズが備わっている必要があります。

A/D コンバータ (ADC) 入力範囲 ±10V に対してフルスケール ±4.5mV の信号を生成するセンサを適切にスケーリングするには、非常に高いゲインが必要です。式 12 に、必要なゲインを選択、計算する手順を示します。アンプをリニア動作の出力電圧範囲内に維持するため、出力は ±4.5V に設定されています。

$$\text{Gain} = \frac{V_{OUT}}{V_{IN}} = \frac{4.5V - (-4.5V)}{4.5mV - (-4.5mV)} = 1000\frac{V}{V} \tag{12}$$

R_F と R_I 抵抗はどの値を選択しても動作しますが、システムへのノイズの影響を考慮してください。構成の入力換算ノイズは、式 13 で詳しく示されているように、R_F と R_I の並列組み合わせによって決まります。

$$e_{nr} = \sqrt{4KT\frac{R_F R_I}{R_F + R_I}} \tag{13}$$

ゲインが非常に大きい場合、R_F は R_I よりはるかに大きくなり、入力換算抵抗ノイズは R_I によって決まります。このため、R_I をできるだけ小さくすると、最良のノイズ性能が得られます。アンプの安定性によって、R_I を小さくできる下限と、それに応じて R_F を大きくできる上限が決まることに注意してください。このアプリケーションでは、R_I を 1kΩ に設定することが適切なトレードオフとなります。

多くのプロセス制御および生体電位センサは、非常に微小な、ほぼ DC レベルの信号を生成します (通常は 10Hz 未満)。可能な限り最良のノイズ性能を実現するため、C_F と R_R で設定される 10Hz ローパス フィルタにより帯域幅が制限されます。DC レベルに近い値では、アンプのフリッカー ノイズによって、回路のノイズ性能が制限されます。TLVx886 は、非常に低いフリッカー ノイズ (標準値は約 180nV$_{PP}$) を実現します。回路の総積分出力ノイズを図 7-4 に示します。総積分ノイズは、抵抗ノイズおよびアンプに固有のノイズの関数です。

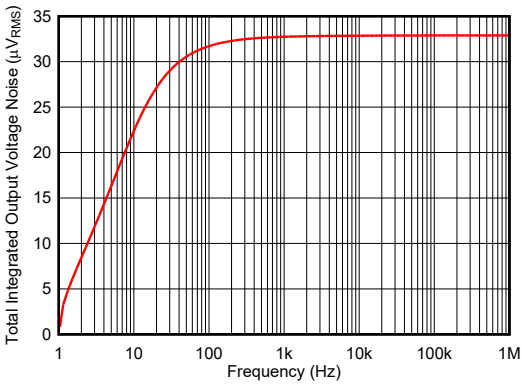


図 7-4. 総積分出力電圧ノイズ

DC 精度も同様に重要で、これにより回路の精度が決まります。入力オフセット電圧はキャリブレーションできますが、一部のアプリケーションにおいて、入力オフセット ドリフトのキャリブレーションは多くの場合、コストや負荷が過剰にかかります。TLVx886 は、非常に低い入力オフセット電圧と入力オフセット電圧ドリフトを実現しています。回路の誤差率は、式 14 を使用して計算できます。TLVx886 は非常に高い同相信号除去比および電源除去比を備えているため、ここではこれらの項目は無視します。

$$\text{Error}_{dc} = \left(\frac{V_{os} + V_{os_drift} + V_{os_CMRR} + V_{os_PSRR}}{V_{IN}}\right) \times 100 \tag{14}$$

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

動作温度 85°C において、TLVx886 の誤差は、室温キャリブレーションなしで 0.5% 未満、室温キャリブレーションありで 0.1% 未満を達成します。ただし、ここに示す性能には、抵抗から生じるゲイン誤差とゲイン誤差ドリフトは含まれないことを考慮してください。追加の誤差を最小化するために、よくマッチングされた低ドリフトの抵抗を使用してください。

7.2.1.3 アプリケーション曲線

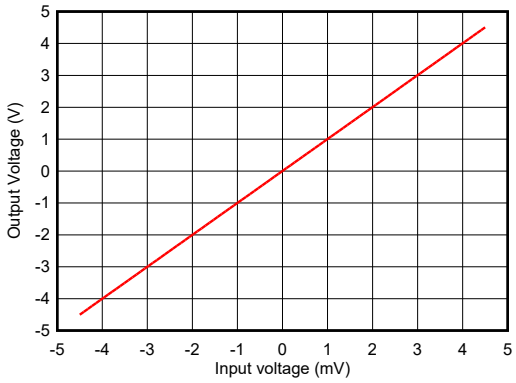


図 7-5. 高ゲイン アンプの結果

7.2.2 差動アンプ

多くのアプリケーションでは、差動からシングルエンドへの変換が必要です。図 7-6 に、RES21A のマッチング抵抗を使用して差動アンプとして構成された TLVx886 を示します。この回路は、電流検出、差動からシングルエンドへの変換、レベル シフトなど、多様なアプリケーションに使用できます。この回路の伝達関数を 式 15 に示します。

$$V_{OUT} = (V_{IN+} - V_{IN-})\left(\frac{R_F}{R_I}\right) + V_{REF} \tag{15}$$

TLVx886 と RES21A を組み合わせることで、非常に高い同相信号除去比と、温度範囲全体にわたるオフセットのドリフト性能が得られます。RES21A は、抵抗比の非常に精密なマッチングお非常に小さい比率ドリフトを維持するよう設計されているため、差動アンプ アプリケーションに最適です。

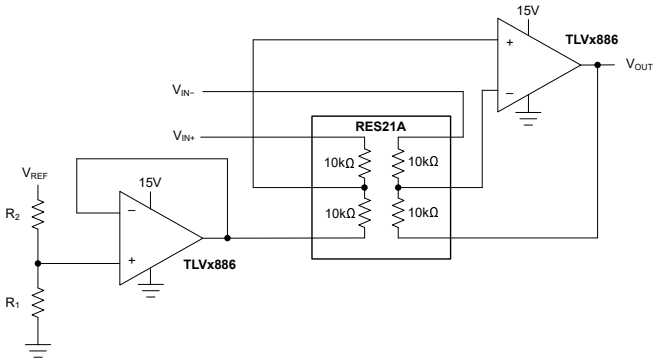


図 7-6. 差動アンプ

正常な動作を維持するため、入力同相電圧がアンプのリニア動作領域内に収まるように、式 16 と 式 17 が満たされていることを確認します。

$$V_{IN}\left(\frac{R_2}{R_2 + R_1}\right) + V_{REF}\left(\frac{R_1}{R_2 + R_1}\right) \le V_+ - 2V \tag{16}$$

$$V_{IN}\left(\frac{R_2}{R_2 + R_1}\right) + V_{REF}\left(\frac{R_1}{R_2 + R_1}\right) \ge V_- - 0.1V \tag{17}$$

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

7.2.3 プログラマブル電流ソース

図 7-7 は、TLVx886 を使用した高精度電流源の基本構成を示しています。この回路は、フローティング負荷に対して構成可能な電流源を提供します。図 7-7 では、D/A コンバータ (DAC) を使用し、式 18 に従って電流レベルを設定しています。周波数補償と安定性のために追加の部品が配置されていますが、一部のアプリケーションでは省略できます。

$$I_L = \frac{V_{IN}}{R_{SET}} \tag{18}$$

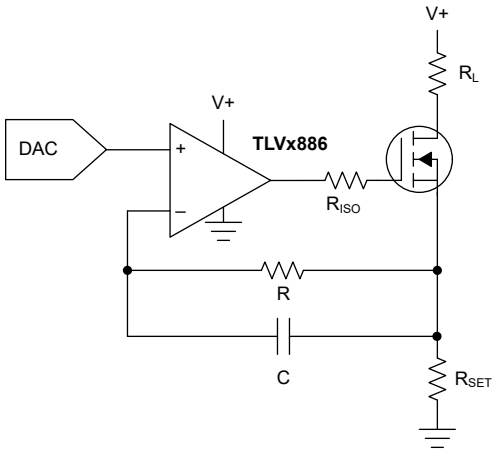


図 7-7. プログラマブル、高精度電流源

7.2.4 サミング アンプ

サミング アンプとして構成された TLVx886 を、図 7-8 に示します。この回路を使用して、N 個のアナログ信号の加重和を取得できます。一部のアプリケーションでは、異なるセンサからの複数の信号の加重和が必要です。TLVx886 の低オフセットおよび低ドリフト性能により、非常に小さな信号を高ゲインで合算することができます。抵抗の選択に応じて、この回路で複数のアナログ信号の平均値を得られます。式 19 のように、回路の出力が反転していることに注意してください。それに応じて電源を設定してください。

$$V_{OUT} = -RF\left(\frac{V_{IN1}}{R1} + \frac{V_{IN2}}{R2} + \frac{V_{IN3}}{R3}\right) \tag{19}$$

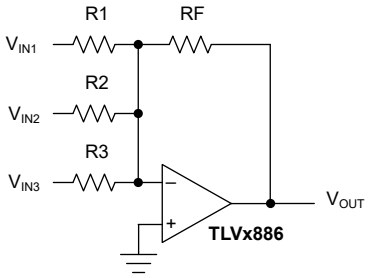


図 7-8. サミング アンプ

7.3 電源に関する推奨事項

TLVx886 は、4.5V～36V (±2.25V～±18V) で動作することが規定されています。TLVx886 は、シングル電源とデュアル電源の両方で動作します。TLVx886 は対称電源を必要とせず、オペアンプは動作に最低 4.5V の電圧のみを必要とします。

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

注意

40V を超える電源電圧を印加すると、デバイスに永続的な損傷を与える可能性があります。*「絶対最大定格」*表を参照してください。

電源ピンの近くに 0.1μF のバイパス コンデンサを配置すると、ノイズの多い電源や高インピーダンスの電源からの誤差を低減できます。バイパス コンデンサの配置の詳細については、セクション 7.4 を参照してください。

7.4 レイアウト

7.4.1 レイアウトのガイドライン

デバイスで最高の動作性能を実現するには、適切な PCB レイアウト手法を使用してください。

- オフセット電圧を最小限に抑えるため、異なる導体の接続部に形成される熱電対接合部で熱電効果 (ゼーベック効果) が発生するような温度勾配を避けます。また、
  - 熱電係数の低い条件を使用します (異なる金属は避けてください)。
  - 電源や他の熱源から部品を熱的に絶縁します。
  - オペアンプおよび入力回路を、冷却ファンなどの空気流から遮蔽します。
- ノイズは、オペアンプの電源ピンや回路全体を通じてアナログ回路に伝播する可能性があります。バイパス コンデンサは、アナログ回路に対して局所的に Low インピーダンスの電源を供給することにより、結合ノイズを低減します。
  - 各電源ピンとグランドの間に Low ESR 0.1μF のセラミック バイパス コンデンサを接続し、可能な限りデバイスの近くに配置します。単一電源アプリケーションの場合は、V+ からグランドに対して 1 つのバイパス コンデンサを接続します。
- 回路のアナログ部分とデジタル部分のグランドを分離することは、ノイズを抑制する最も簡単かつ効果的な方法の 1 つです。通常、多層 PCB のうち 1 つ以上の層はグランド プレーン専用です。グランド プレーンは熱の分散に役立つとともに、EMI ノイズを拾う可能性を低減します。グランド電流の流れに注意して、デジタル グランドとアナログ グランドを物理的に分離します。詳細については、*『PCB はオペアンプ設計のコンポーネント』*Analog Design Journal を参照してください。
- 寄生カップリングを低減するには、入力配線を電源配線または出力配線からできるだけ離して配置します。これらのトレースを離して配置できない場合、感度の高いトレースをノイズの多いトレースと平行にするのではなく、垂直に交差させます。
- デカップリング コンデンサをデバイスのできるだけ近くに配置します。図 7-10 が示すように、帰還抵抗 (R3) とゲイン抵抗 (R4) は反転入力の近くに配置して、寄生容量を最小限に抑えます。
- 入力パターンは、できる限り短くしてください。反転入力へのトレースを短くすると、反転入力の寄生容量を最小限に抑えることができます。入力パターンは、回路の中で最も影響を受けやすい部分であることを常に意識してください。
- 最高の性能を得るために、基板組立後には PCB を清掃します。
- 高精度の集積回路では、プラスチック パッケージへの水分の侵入により性能が変化する場合があります。PCB を水で洗浄した後で、PCB アセンブリをベーキングして、洗浄中にデバイスのパッケージに取り込まれた水分を除去します。ほとんどの状況では、クリーニング後に 85℃で 30 分間の低温ベーキングを行えば十分です。

ADVANCE INFORMATION

7.4.2 レイアウト例

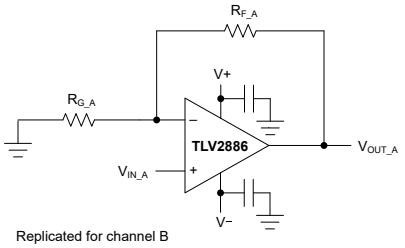


図 7-9. 回路図

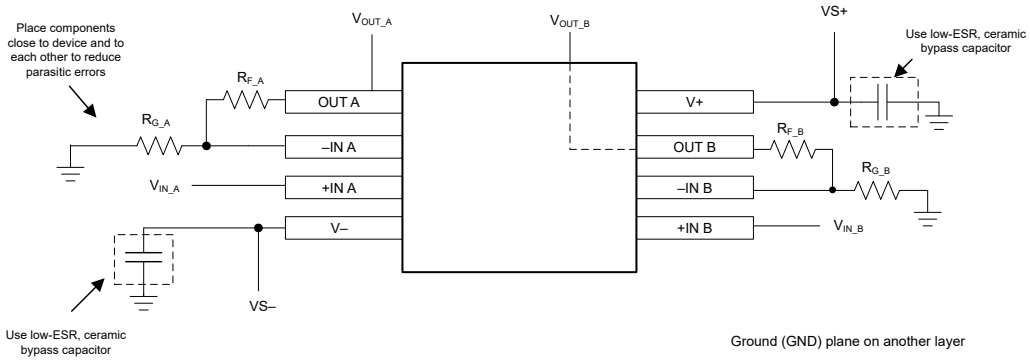


図 7-10. 非反転型アンプ構成のオペアンプ基板のレイアウト

ADVANCE INFORMATION

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

8 デバイスおよびドキュメントのサポート

8.1 デバイス サポート

8.1.1 サード・パーティ製品に関する免責事項

サード・パーティ製品またはサービスに関するテキサス・インスツルメンツの出版物は、単独またはテキサス・インスツルメンツの製品、サービスと一緒に提供される場合に関係なく、サード・パーティ製品またはサービスの適合性に関する是認、サード・パーティ製品またはサービスの是認の表明を意味するものではありません。

8.1.2 開発サポート

8.1.2.1 PSpice® for TI

PSpice® for TI は、アナログ回路の性能評価に役立つ設計およびシミュレーション環境です。レイアウトと製造に移る前に、サブシステムの設計とプロトタイプの設計を作成することで、開発コストを削減し、市場投入までの期間を短縮できます。

8.1.2.2 TINA-TI™ シミュレーション ソフトウェア (無償ダウンロード)

TINA-TI™ シミュレーション ソフトウェアは、SPICE エンジンをベースにした単純かつ強力な、使いやすい回路シミュレーション プログラムです。TINA-TI シミュレーション ソフトウェアは、TINA™ ソフトウェアのすべての機能を持つ無償バージョンで、パッシブ モデルとアクティブ モデルに加えて、マクロモデルのライブラリがプリロードされています。TINA-TI シミュレーション ソフトウェアには、SPICE の標準的な DC 解析、過渡解析、周波数ドメイン解析などの全機能に加え、追加の設計機能が搭載されています。

TINA-TI シミュレーション ソフトウェアは設計およびシミュレーション ツール Web ページから無料でダウンロードでき、ユーザーが結果をさまざまな形式で処理できる、広範な後処理機能を備えています。仮想計測器により、入力波形を選択し、回路ノード、電圧、および波形をプローブして、動的なクイック スタート ツールを作成できます。

注

これらのファイルを使用するには、TINA ソフトウェアまたは TINA-TI ソフトウェアがインストールされている必要があります。TINA-TI™ ソフトウェア フォルダから、無償の TINA-TI シミュレーション ソフトウェアをダウンロードしてください。

8.2 ドキュメントのサポート

8.2.1 関連資料

関連資料については、以下を参照してください。

- テキサス・インスツルメンツ、*『ゼロドリフト アンプ：特長と利点』アプリケーション ブリーフ*
- テキサス インスツルメンツ、*『PCB はオペアンプ設計のコンポーネント』アプリケーション ノート*
- テキサス・インスツルメンツ、*『オペアンプのゲイン安定性、第 3 部：AC ゲイン誤差の分析』*
- テキサス・インスツルメンツ、*『オペアンプのゲイン安定性、第 2 部：DC ゲイン誤差の分析』*
- テキサス インスツルメンツ、*『完全差動アクティブ フィルタにおける無限ゲイン、MFB フィルタトポロジの使用』アプリケーション ノート*
- テキサス インスツルメンツ、*『オペアンプの性能分析』*
- テキサス インスツルメンツ、*『オペアンプの単一電源動作』アプリケーション ノート*
- テキサス インスツルメンツ、*『鉛フリー仕上げ部品の保管寿命評価』アプリケーション ノート*
- テキサス インスツルメンツ、*『フィードバック プロットによるオペアンプ AC 性能の定義』アプリケーション ノート*
- テキサス・インスツルメンツ、『オペアンプの EMI 除去率』アプリケーション ノート
- テキサス インスツルメンツ、*『測温抵抗体のアナログ線形化』アプリケーション ノート*
- テキサス インスツルメンツ、*『TI 高精度設計 TIPD102 ハイサイド電圧-電流 (V-I) コンバータ』*

ADVANCE INFORMATION

ADVANCE INFORMATION

8.3 ドキュメントの更新通知を受け取る方法

ドキュメントの更新についての通知を受け取るには、www.tij.co.jp のデバイス製品フォルダを開いてください。[通知] をクリックして登録すると、変更されたすべての製品情報に関するダイジェストを毎週受け取ることができます。 変更の詳細については、改訂されたドキュメントに含まれている改訂履歴をご覧ください。

8.4 サポート・リソース

テキサス・インスツルメンツ E2E™ サポート・フォーラムは、エンジニアが検証済みの回答と設計に関するヒントをエキスパートから迅速かつ直接得ることができる場所です。既存の回答を検索したり、独自の質問をしたりすることで、設計で必要な支援を迅速に得ることができます。

リンクされているコンテンツは、各寄稿者により「現状のまま」提供されるものです。これらはテキサス・インスツルメンツの仕様を構成するものではなく、必ずしもテキサス・インスツルメンツの見解を反映したものではありません。テキサス・インスツルメンツの使用条件を参照してください。

8.5 商標

TINA-TI™ and テキサス・インスツルメンツ E2E™ are trademarks of Texas Instruments.
TINA™ is a trademark of DesignSoft, Inc.
PSpice® is a registered trademark of Cadence Design Systems, Inc.
すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

8.6 静電気放電に関する注意事項

この IC は、ESD によって破損する可能性があります。テキサス・インスツルメンツは、IC を取り扱う際には常に適切な注意を払うことを推奨します。正しい取り扱いおよび設置手順に従わない場合、デバイスを破損するおそれがあります。

ESD による破損は、わずかな性能低下からデバイスの完全な故障まで多岐にわたります。精密な IC の場合、パラメータがわずかに変化するだけで公表されている仕様から外れる可能性があるため、破損が発生しやすくなっています。

8.7 用語集

テキサス・インスツルメンツ用語集　　この用語集には、用語や略語の一覧および定義が記載されています。

9 改訂履歴

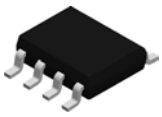
資料番号末尾の英字は改訂を表しています。その改訂履歴は英語版に準じています。

日付	改訂	注
February 2026	*	初版リリース

10 メカニカル、パッケージ、および注文情報

以降のページには、メカニカル、パッケージ、および注文に関する情報が記載されています。この情報は、指定のデバイスに使用できる最新のデータです。このデータは、予告なく、このドキュメントを改訂せずに変更される場合があります。本データシートのブラウザ版を使用されている場合は、画面左側の説明をご覧ください。

Copyright © 2026 Texas Instruments Incorporated

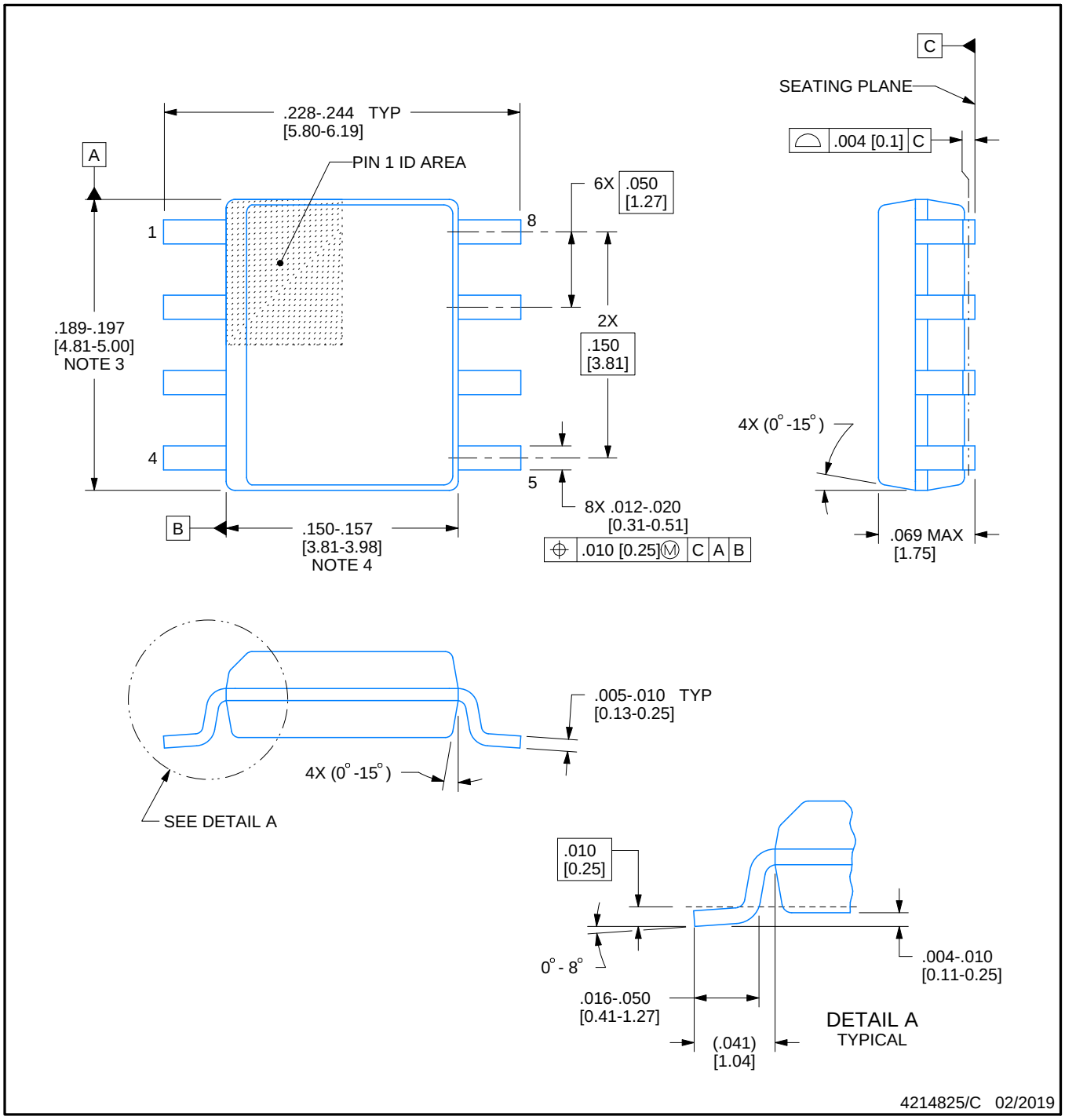


PACKAGE OUTLINE

D0008A

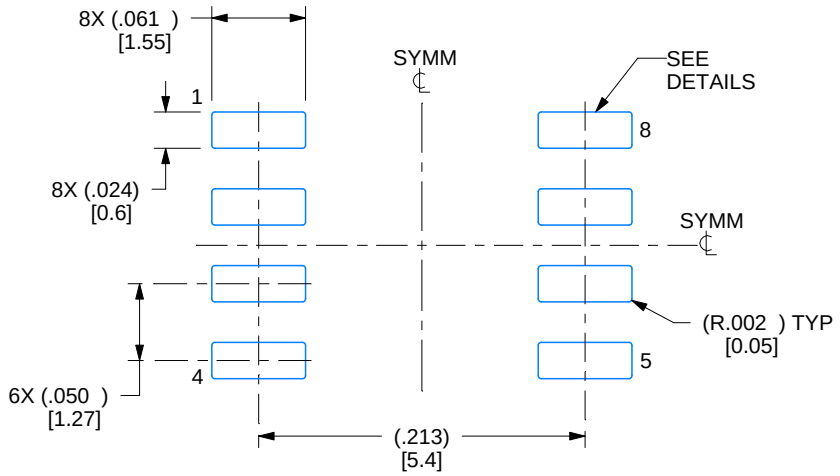
SOIC - 1.75 mm max height

SMALL OUTLINE INTEGRATED CIRCUIT

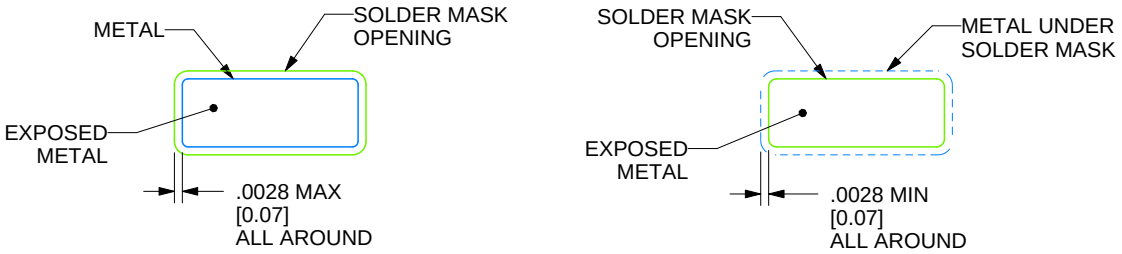


NOTES:

1. Linear dimensions are in inches [millimeters]. Dimensions in parenthesis are for reference only. Controlling dimensions are in inches. Dimensioning and tolerancing per ASME Y14.5M.
2. This drawing is subject to change without notice.
3. This dimension does not include mold flash, protrusions, or gate burrs. Mold flash, protrusions, or gate burrs shall not exceed .006 [0.15] per side.
4. This dimension does not include interlead flash.
5. Reference JEDEC registration MS-012, variation AA.



LAND PATTERN EXAMPLE
EXPOSED METAL SHOWN
SCALE:8X

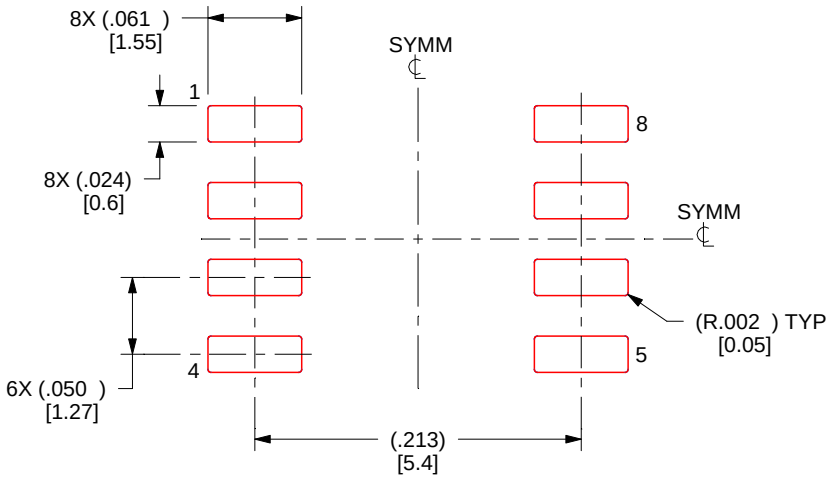


SOLDER MASK DETAILS

4214825/C 02/2019

NOTES: (continued)

6. Publication IPC-7351 may have alternate designs.
7. Solder mask tolerances between and around signal pads can vary based on board fabrication site.



SOLDER PASTE EXAMPLE
BASED ON .005 INCH [0.125 MM] THICK STENCIL
SCALE:8X

4214825/C 02/2019

NOTES: (continued)

8. Laser cutting apertures with trapezoidal walls and rounded corners may offer better paste release. IPC-7525 may have alternate design recommendations.
9. Board assembly site may have different recommendations for stencil design.

重要なお知らせと免責事項

TI は、技術データと信頼性データ (データシートを含みます)、設計リソース (リファレンス デザインを含みます)、アプリケーションや設計に関する各種アドバイス、Web ツール、安全性情報、その他のリソースを、欠陥が存在する可能性のある「現状のまま」提供しており、商品性および特定目的に対する適合性の黙示保証、第三者の知的財産権の非侵害保証を含むいかなる保証も、明示的または黙示的にかかわらず拒否します。

これらのリソースは、TI 製品を使用する設計の経験を積んだ開発者への提供を意図したものです。(1) お客様のアプリケーションに適した TI 製品の選定、(2) お客様のアプリケーションの設計、検証、試験、(3) お客様のアプリケーションに該当する各種規格や、その他のあらゆる安全性、セキュリティ、規制、または他の要件への確実な適合に関する責任を、お客様のみが単独で負うものとします。

上記の各種リソースは、予告なく変更される可能性があります。これらのリソースは、リソースで説明されている TI 製品を使用するアプリケーションの開発の目的でのみ、TI はその使用をお客様に許諾します。これらのリソースに関して、他の目的で複製することや掲載することは禁止されています。TI や第三者の知的財産権のライセンスが付与されている訳ではありません。お客様は、これらのリソースを自身で使用した結果発生するあらゆる申し立て、損害、費用、損失、責任について、TI およびその代理人を完全に補償するものとし、TI は一切の責任を拒否します。

TI の製品は、 TI の販売条件 、 TI の総合的な品質ガイドライン 、 ti.com または TI 製品などに関連して提供される他の適用条件に従い提供されます。TI がこれらのリソースを提供することは、適用される TI の保証または他の保証の放棄の拡大や変更を意味するものではありません。 TI がカスタム、またはカスタマー仕様として明示的に指定していない限り、TI の製品は標準的なカタログに掲載される汎用機器です。

お客様がいかなる追加条項または代替条項を提案する場合も、TI はそれらに異議を唱え、拒否します。

Copyright © 2026, Texas Instruments Incorporated

最終更新日：2025 年 10 月